

## 中村善策と北前船主の縁は――

### 26日、小樽美術館で講演会

小樽出身の風景画家、中村善策（1901～83年）と北前船の船主だった西谷家のつながりを伝える講演

会が26日に市立小樽美術館で開かれる。講師は小樽商科大学術研究員の高野宏康さん。画家として独り立ちする前の善策を西谷家が支

善策と西谷家の関わりを示した企画展の特設コーナー



援していたことなど、あまり知られてこなかった両者の縁を紹介する。

海運業を営む石川県加賀市の西谷家は北前船で財を成し、小樽にも進出。明治時代に西谷家が建造した旧小樽倉庫は小樽を代表する石造倉庫だ。高野さんが加賀市の旧西谷邸などを調査した際に小樽に関する多数の資料を発見。若き日の善策が西谷家の海運会社に勤めながら絵の勉強に励み、上京直前には西谷家の山荘にこもって創作したところなども明らかになった。

小樽美術館では2月24日まで善策の企画展を開催中で、会場内に善策と西谷家の特設コーナーも開設。西谷家の当主夫妻を描いた善策としては珍しい肖像画や西谷家に送った手紙などを展示している。

講演会は午後2時から館内の研修室で開催。入場無料。企画展の観覧は有料。

(森川潔)

樽商大生

## 本気プロの成果 あす発表します



本気プロの発表会をPRする小樽商大の学生たち

小樽商科大が地域連携教育の一環で行っている「商大生が小樽の活性化を本気で考えるプロジェクト(略称・本気プロ)」の成果発表会が27日午後1時から5時まで、市内の運河プラザ(色内2)の三番庫ギャラ

リーで開かれる。プロジェクトに取り組んできた学生らが25日に市役所を訪れ、市民に会場を呼びかけた。本気プロは2008年から毎年夏と冬の2回実施。学生たちが地域の活性化を探究する研究や実践活動を行っ

ている。今回は昨年夏に始まったプロジェクトの最終成果発表会で、28人の学生が七つのテーマで続けた活動について各グループが7分間ずつ発表する。

ユニバーサルデザインをテーマにしたグループは、小樽の観光施設のバリアフリー度を調べたマップ作りを取り組んできた。学生が実際に車いすに乗って運河周辺を回る体験や、障害のある人からの聞き取りなども重ねたそう。平野佑稀さん(1年)は「ハード面だけでなく、ソフト面で対応の充実が望まれていることがわかった」と話す。

報告会では本気プロのねらいなどを紹介する基調報告や今冬から始まるプロジェクト第1回演習を兼ねた公開授業も行う。入場無料(入退場は自由)。(森川潔)

日口人材交流・育成セミナーの様子を報告する高橋さん(中央)と高野さん(右)



## 「小樽もっとアピールしたい」

### 日口人材交流セミナー

昨年12月にロシア・サンクトペテルブルクで日口人材交流・育成セミナーを開いた小樽商科大研究員の高野宏康さんと、市内のバレエ・ロシア語教室主宰、高橋匠美さんが24日、小樽市役所を訪れ、迫俊哉市長に帰国報告を行った。

セミナーは昨年12月上旬、ロシアの学生に日本への旅行や留学を促し、日口を結ぶビジネスに関わる人材を育てることを目的に開催。日本語会話教室を開いたり小樽の菓子を振る舞ったりしたほか、小樽と札幌函館の魅力を紹介した。サンクトペテルブルクの

### バレエ教室主宰者らが帰国報告

バレエ学校や大学で学び、ロシア語の堪能な高橋さんは「日本語教室は大変好評。ぜひすしを食べたいと言われてうれしかった。小樽は全く知られておらず、これを機会に良さをアピールしていきたい」と決意。高野さんは「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト(マジプロ)でチームをつくる」と話した。

迫市長は「新千歳とウラジオストクを結ぶ直行便が就航したのをきっかけに交流を促進し、ロシアに目を向けるいいタイミング」と話していた。(西出真一朗)